

# 四国地区 地域総合戦略

2024年08月25日(提出日)

公益社団法人日本青年会議所

2025年度 四国地区担当常任理事

大前 裕也

# 目次

1 地区内ブロック協議会の現状	3
1.1 四国地区協議会毎の会員推移	3
1.2 協議会への出向数、出向率の推移	4
1.3 女性会員、在籍3年未満、退会者数	6
1.4 年齢別人口	7
1.5 20名以下のLOM数	8
1.6 ブロックアカデミーの開催状況	10
1.7 地区協議会における直近3年間の議長・委員長の経歴確認	11
2 地域が描く理想の未来について	12
2.1 四国協議会の現状についての考察	12
2.2 地区会長として描く地域の理想の未来(長期的なビジョン)	13
2.3 2025年度の方向性	14
2.4 前年度からの引継ぎを反映したアップデートポイント	14
3 基本理念	15
4 地区連携事業(政策手法)	16
① JCカップU-11少年少女サッカー地区予選大会の開催	15
② スポーツを通じて個人の意識改革から共生社会実現に向けた事業	17
③ 戦後80年を迎える日本の平和共育推進事業の参画	17
④ 災害ネットワークの強化に関する事業	17
5 地区独自の事業	19
①世界を感じ、地域を知り、知見を広げる機会を作る事業	
②未来を創造する四国版JCカップの開催	
③四国地区リーダーシップフォーラムの開催	
④四国地区大会 坂出大会の実施	
6 参考資料一覧	22

## 1 四国地区内ブロック協議会の現状

### 1.1 四国地区内ブロック協議会毎の会員推移

ブロック 協議会名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
香川	254名	242名	218名	197名	202名	182名
愛媛	427名	425名	386名	405名	404名	426名
高知	164名	138名	129名	118名	115名	118名
徳島	265名	244名	225名	208名	193名	193名
合計	1110名	1049名	958名	928名	914名	915名

(2024年7月時点)

香川ブロック協議会：29.35%減 愛媛ブロック：1.17%減 高知ブロック：28.05%減 徳島ブロック：27.17%減

四国には4つのブロック協議会があり、それぞれ27のLOMから構成されています。この5年間のメンバー数の推移を見ると、2019年度が最も多く、2024年度と比較すると約29.35%の減少が見られます。愛媛ブロック協議会では微増した年もあり、必ずしも一貫した減少とは言えませんが、全体としては減少傾向にあります。高知ブロック協議会では28.05%の減少、徳島ブロック協議会では27.1%の減少が見られます。地域の人口減少や企業数の減少がメンバー拡大の障害となっており、一部のLOMではメンバー数が一桁になり、事業の実施が難しくなっています。また、在籍メンバーの年齢上昇や入会年数の浅いメンバーの増加により、理事者の成り手不足やメンバーの経験不足が会議運営や事業実施の課題となっているLOMも多く存在します。このような状況下で、地区協議会としては、メンバーの育成に特化したLOMへのサポート、県を超えたブロック連携事業の推進、そして地区協議会がブロック協議会と本会の間で総合連絡調整機関としての役割を果たすことが今まで以上に求められています。

## 1.2 協議会への出向数、出向率の推移

### 四国地区協議会

地区協議会	2021年		2022年		2023年		2024年	
	出向者数	出向率	出向者数	出向率	出向者数	出向率	出向者数	出向率
四国	123名	12.3%	117名	12.9%	110名	12.7%	130名	14.2%

(2024年7月時点)

現在、四国地区協議会への出向者の割合は全体平均で7人に1人となっています。この状況を踏まえると、各ブロック協議会でメンバー数が減少している現状に対応するため、地区協議会のスリム化が求められています。また、事業の規模や委員会の数も、今後の状況に応じて柔軟に計画を立てる必要があります。特に、出向が負担と感じるメンバーも多く、その意見を無視することはできません。LOMの現状に応じた対応が重要ですが、同時に、出向したいと思わせる魅力的な協議会を作ることが必要です。出向はメンバーの成長の機会であり、その経験がリーダーシップを高め、地域全体の活性化に貢献することを忘れてはなりません。出向が単なる負担ではなく、自己成長と地域貢献の大きなチャンスであることを伝えていきます。これにより、協議会全体の活性化と持続可能な運営を実現し、四国地区全体の発展に貢献することができると思っています。

### ■ブロック協議会

ブロック協議会名	2021年		2022年		2023年		2024年	
	出向者数	出向率	出向者数	出向率	出向者数	出向率	出向者数	出向率
香川	80名	36.6%	58名	29.6%	39名	20.6%	48名	23.2%
愛媛	121名	31.3%	67名	16.5%	57名	15.6%	78名	18.3%
高知	63名	43.4%	44名	34.4%	46名	39.7%	43名	34.7%
徳島	63名	32.4%	61名	29.7%	47名	24.5%	55名	23.1%
合計	327名	31.2%	230名	24.5%	189名	25.1%	227名	24.8%

(2024年7月時点)

香川ブロック協議会: 2024年度には事業数を再評価し、組織のスリム化を進めています。これにより、LOMへの出向負担を減らし、LOM事業の質を向上させることを目指しています。

愛媛ブロック協議会: 2022年度には出向者数が大幅に減少し、委員会数や事業数を減らしてスリム化を図り、委員の出向負担を軽減しています。

高知ブロック協議会: 多くのメンバーがブロック協議会に出向するのが慣例ですが、その影響がLOMに悪影響を及ぼしていないかを検証し、考察する必要があります。

徳島ブロック協議会: 2024年度には組織のスリム化を進め、小規模LOM(20名以下)の出向負担を減らし、LOM運営の充実を図っています。ブロック協議会も地区協議会同様、メンバー数の減少に伴い出向者数は減少をしています。

香川ブロック協議会では、2024年度に事業数を見直し、組織のスリム化を進めることで、LOMへの出向負担を軽減し、LOM事業の質を向上させることを目指しています。一方、愛媛ブロック協議会では2022年度に出向者数が大幅に減少し、委員会数や事業数を減らして組織のスリム化を図り、委員の出向負担を軽減しています。2023年度には香川ブロック協議会や徳島ブロック協議会もメンバー数に応じた運営計画を実施しました。徳島ブロック協議会では、2024年度に組織のスリム化を進め、小規模LOM(20名以下)の出向負担を減らし、LOM運営の充実を図っています。高知ブロック協議会では、多くのメンバーがブロック協議会に出向するのが慣例となっていますが、その影響がLOMに悪影響を及ぼしていないかを検証し、考察する必要があります。今後、特に小規模LOMが多く、メンバー数の減少が顕著な高知ブロック協議会では、現状の組織体制で持続可能な運営が可能かどうかの検証が求められています。

### 1.3 女性会員、在籍3年未満、退会者数

ブロック協議会名	女性会員比率	在籍3年未満比率	退会者比率
香川	10.14%	35.75%	0.48%
愛媛	7.3%	42.49%	0.47%
高知	12.1%	52.42%	8.06%
徳島	11.3%	44.12%	4.2%
合計	8.45%	43.6%	3.3%
全国平均	10.49%	51.89%	1.52%

(2024年7月時点)

香川ブロック協議会において、女性会員比率は10.14%、在籍3年未満のメンバー比率は35.75%、退会者比率は0.48%です。愛媛ブロック協議会では、女性会員比率は7.3%で、在籍3年未満の比率は42.49%と退会者比率0.47%となっています。高知ブロック協議会では、女性会員比率が12.1%と全国平均の10.7%を上回り、在籍3年未満のメンバー比率は52.42%、退会者比率は8.06%です。徳島ブロック協議会では、女性会員比率は11.3%、在籍3年未満のメンバー比率は44.12%、退会者比率は4.2%です。これらのデータを総合すると、香川ブロック協議会は女性会員比率が全国平均に近く、在籍3年未満のメンバーが少ないため、経験豊富なメンバーが多いといえます。愛媛ブロック協議会は女性会員比率が低く、在籍3年未満と退会者の比率は低いです。高知ブロック協議会は女性会員比率が全国平均を上回り、在籍3年未満のメンバーも多く、活発な新規メンバーの参加が見られる一方で、退会者比率も高いという課題があります。徳島ブロック協議会は女性会員比率が全国平均に近く、在籍3年未満のメンバーが多く、比較的安定したメンバー構成となっています。全国平均を踏まえると、各ブロック協議会は女性メンバーの増加や退会者の減少に向けた対策が必要であり、具体的には、仕事や育児とのサポートを含む、運営体制の改善や、コミュニケーションの強化を図る必要があると感じております。特に高知ブロック協議会では新規メンバーの定着率向上が重要課題となっています。

## 1.4 年齢別人口

県名	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	合計	会員数	対象人口 に対する 会員割合
香川	37,500	35,900	40,300	40,800	154,500	182	0.11%
愛媛	48,000	52,000	59,000	69,000	215,000	426	0.09%
高知	32,000	26,000	24,600	26,400	106,000	118	0.11%
徳島	25,500	24,300	25,600	32,600	108,000	193	0.17%
合計	146,000	138,200	146,500	165,800	583,000	915	0.14%

(2024年4月時点)

四国地区協議会内の各府県の年齢別人口を比較すると、香川県や愛媛県といった都市圏には、総人口の63.3%が集中しています。若年層は高等教育機関や国の地方支部局がある地域に多く見られる傾向があります。しかし、対象人口に対するメンバーの割合を見ると、愛媛県で0.19%、徳島県では0.17%と、高い数値が出ています。これにより、四国地区内のメンバーの割合は、地域によって大きく異なっていることがわかります。

圏域全体で見ると、四国地区の人口減少は全国よりも約25年早く進行しており、高齢化も約10年早く進んでいる地域です。このような状況下では、人口減少率を大幅に引き下げることは難しいかもしれませんが、それでもメンバーの拡大を確実に行う必要があります。

## 1.5 20名以下のLOM数

ブロック協議会名	LOM数	20名以下 LOM数	20名以下 LOM比率	10名以下 LOM数	10名以下 LOM比率	2023年度 解散LOM数	要支援 LOM数
香川	6	1	16%	0	0%	0	0
愛媛	8	1	12.5%	0	0%	0	0
高知	6	3	50%	1	16%	0	1
徳島	7	4	57%	0	0%	0	0
合計	27	10	29.6%	1	11.5%	0	1

(2024年7月時点)

## 10名以下のLOMを記載、及び、要支援LOM

一社/公社	名前	人数	備考
	高知:須崎 <b><u>要支援LOM</u></b>	7人	現在、少人数で、事業運営をしております。2024年度は7名体制で、四国地区大会須崎大会の実行委員長を輩出しました。少人数での事業運営をしており、会員拡大が最も重要な課題となっております。人口減少により入会者が集まりにくい状況です。 <b>原因仮説:</b> 地域の青年層が都市部に移住していること、LOMの活動が十分に認知されていないこと、入会に際して条件や負担が大きいことが原因と考えられます。

			<p><b>対策:</b> 地域社会へのPR強化、既存メンバーの人脈を活かした紹介や口コミを通じた拡大施策を実施していくべきです。</p>
--	--	--	---

#### 10名以上だが、2025年度に10名以下となる想定のあるLOM

一社/公社	名前	人数	備考
公社	徳島:阿波池田 要支援LOM	11人→5名	<p>メンバーが2025年度に5名に減少する見込みで、会員拡大が最重要課題となっています。法人格を外す運営も視野に入れています。</p> <p><b>原因仮説:</b> 法人格を維持するための運営負担が大きく、少人数での活動に支障が出ている可能性があります。また、地域の人口減少や高齢化により新規会員の募集が停滞していることも一因と考えられます。</p> <p><b>対策:</b> 法人格を外して運営の負担を軽減し、柔軟な活動体制を構築することが必要です。また、ブロックや地区と連携し、支援を活用しながら会員拡大を推進するとともに、メンバーのモチベーション向上を図る取り組みも重要です。</p>

#### 現状の分析

四国地区全体では、29.6%のLOMが20名以下であり、小規模LOMの多さが組織運営や活動継続の課題となっています。特に新入会員の増加に伴い、経験不足のメンバーが多く、地域への発信力が低下し、地区やブロック全体の活動にも影響が出ています。特に10名以下のLOMは1LOMで、予算などの不足が運動発信に影響を与え、個々のメンバーにかかる負担が大きくなっています。これにより、ネットワーク形成が難しくなり、組織の成長が停滞するリスクが高まっています。こうしたLOMが持続可能に活動を

続けるためには、他のLOMや外部との連携強化、デジタルツールの活用といった効率的な運営方法の導入が求められます。また、地区協議会やブロック協議会によるヒアリングや支援も必要です。

### 今後の対策

今後の対策として、まず四国地区役員会のブロック協議会会長報告において、各LOMの例会や総会の開催状況を確認します。開催していないLOMに対しては、本会(日本JC)と連携し、ブロック協議会と共にLOMの状況に応じた対応を行います。このプロセスを通じて、LOMの活動の活性化を図り、メンバーのモチベーション向上を目指します。例会や総会が未開催、または議事録や活動報告が不十分な場合は、メンバーのモチベーション低下や組織の統一感欠如に繋がるため、早急な対応が必要です。定期的開催され、高い出席率と充実した報告が行われている場合は、組織が健全に運営され、メンバーの意欲が維持されるため、問題ないと考えます。

### 具体的な支援策

2024年度中には解散したLOMはありませんが、過去には解散の危機に瀕したLOMがありました。現在も高知ブロック協議会を含め、四国地区全体で1つのLOMが解散の危機にあります。これらのLOMに対しては、例会や総会の開催状況を綿密に把握し、LOMの状況に応じた具体的な対応策をブロック協議会やLOM支援委員会と連携して進める必要があります。特に高知ブロック協議会では、半数以上のLOMが20名以下であり、メンバー数の減少が深刻な問題となっています。これに対して、地区協議会はブロック協議会と密接に連携し、後方支援を強化し、メンバー数の拡大に注力していきます。

### 拡大支援と連携

日本本会と連携したLOMへのサポートに加え、ブロック協議会内での拡大支援も検討されています。具体的には、各LOMが地域の特性に応じた活動を展開できるように支援することが重要です。例えば、人口比率やまち規模に応じたメンバー数の拡大策を講じることで、地域全体の活性化を図ります。急に状況が変わる可能性があるため、他のLOMも同様にブロック協議会と共に対処策を検討し、地域ごとの特性に応じた支援を提供することが必要です。このため、地区協議会は常に各LOMの状況を把握し、迅速かつ適切な対応を行う体制を整えます。

### 長期的な目標

四国地区協議会は、LOMの持続可能性を確保し、地域社会への貢献を強化するため、様々な対策を進めています。現在、四国地区全体で3つのLOMが解散の危機にあり、特に高知ブロック協議会では半数以上のLOMが20名以下で深刻な状況です。こうしたLOMには、例会や総会の状況を把握し、個別に合わせた支援をブロック協議会やLOM支援委員会と連携して進めます。具体的な支援策として、メンバー拡大キャンペーンや協力プログラムの展開、研修会の開催などを検討し、地区協議会も後方から積極的にサポートします。最終的には、すべてのLOMが地域社会への貢献を果たし、四国全体の活力を取り戻すことを目指しています。各メンバーがリーダーシップを発揮し、地域の課題に向き合い行動することで、四国の未来を輝かせ、魅力的な地域社会を実現していきます。四国地区協議会はこのビジョンを実現するために全力で取り組んでいきます。

## 1.6 ブロックアカデミーの開催状況

ブロック 協 議会名	開催の有無	開催期間及び開催内容
香川	有	<p>【開催期間】2024年2～10月</p> <p>【事業開催日数】1日開催</p> <p>【開催内容】 2月に香川県下6つの青年会議所が合同で行う6LOM合同例会において、JCIプログラムのJCI Achieveを開催。そして会員会議所会議の前に1時間の時間を取り、理念共感セミナーや議案の書き方・見方などの講習会を実地し、その後には親睦を深める交流会を実施しています。</p>
愛媛	有	<p>【開催期間】開催期間:2024年5月 開催期間:2024年9月予定</p> <p>【事業開催日数】各1日開催</p> <p>【開催内容】 ①タイトル:「議案書のみらいへようこそ AIと多様性が導く新時代」 チャットGPTを活用した議案作成実演講座 開催内容:行動化のための良質な情報共有</p> <p>②タイトル:ファーストステップ推進事業 LOMの垣根を超えた交流大会の実施 開催内容:理念教育システムの再構築 purpose: purposeの実施</p>
高知	有	<p>【開催期間】2024年3月</p> <p>【事業開催日数】1日開催</p> <p>【開催内容】 「皆で学ぶ我らがJC事業」開催アチーブメント株式会社高木講師をお招きし、JCが掲げる理念の浸透、JC活動にやる気とやりがいを持って運動をおこせる人材の情勢と退会者を減らすことを目的としたセミナーを開催しました。</p>
徳島	有	<p>【開催期間】2024年5月～11月(予定)</p> <p>【事業開催日数】1日開催</p>

	<p><b>【開催内容】</b>          JCプログラム及びJCセミナーを活用した新たなリーダーの育成や          理念共感による組織力向上を目的とした事業の実施</p>
--	--

(2024年7月時点)

四国地区協議会内では全てのブロック協議会がブロックアカデミーを実施しています。2025年度も継続して実施していただくように、各ブロック協議会の会長と連携して参ります。内容としては、JCIプログラムブロック役員の講和、シニア、歴代理事長、ブロック会長などの入会3年未満対象のセミナー、日本JCからの講師を招いたVMVセミナー等、様々な手法でブロックアカデミーを開催しております。開催日時や時間については、香川1日開催、愛媛2事業それぞれ1日開催、高知1日開催、徳島1日開催となっております。問題点としまして一部ではLOMが実施するアカデミーなどと内容が被ることや、全ブロック協議会共通でアカデミーメンバーの参加動員に苦戦しているのが現状です。また、ブロックによってアカデミー委員会の開催期間や方法、形態が大きくことなり、均一の成果を求めるのであれば、地区内のブロックアカデミー開催についてはパッケージ化することも検討する必要があります。

### 1.7 地区協議会における直近3年間の議長・委員長の経歴確認

年度	役職	名前	LOMでの 理事経験の有無	入会後 何年目か
2024年度役員	委員長	塩田 勇志	有	7年目
	委員長	南 幸祐	有	4年目
	委員長	木下 浩滋	有	4年目
	委員長	宮内 淳也	有	4年目
	議長	正金 秀夫	有	7年目
2023年度役員	委員長	弘田 超	有	7年目
	委員長	安達 竜平	有	6年目
	委員長	諏訪 佑輔	有	5年目

	委員長	田中 政守	有	7年目
	議長	植西 剛大	有	3年目
2022年度役員	議長	岡田 将太郎	有	5年目
	委員長	羽原 龍正	有	11年目
	委員長	桑島 正道	有	1年目
	委員長	高畠 健一	有	2年目
	議長	大下 俊樹	有	7年目

※枠が足りない場合には増やしてください。

## 2 地域が描く理想の未来について

### 2.1 四国地区地区協議会の現状についての考察

四国地区の各ブロック協議会では、会員数の減少が進む一方で、新規入会者の増加も見られます。しかし、メンバー数が少ないLOMでは、経験不足の新入会員が理事メンバーとして重要な役割を担うことが増えており、これが大きな負担となっています。この状況がモチベーションの低下を招き、地域に対する運動発信能力が低下し、その影響力も減少しています。その結果、出向者を出すことが難しくなり、地区協議会やブロック協議会全体の活動にも影響が及んでいます。このような状況を打開するためには、新入会員などに対する教育や、経験豊富なメンバーの指導に対する負担を四国地区協議会やブロック協議会による継続的なサポートと指導が不可欠です。新入会員がスムーズに組織に溶け込み、効果的に活動できるよう、全体的なサポート体制の強化が求められています。また、日本本会との連携事業や四国地区協議会独自の事業を通じて、各LOMへの支援を強化し、メンバーの成長と地域社会への貢献意識を高めることが重要です。新入会員メンバーをはじめ、多くの会員がJC活動に夢中で取り組むことで、四国地区全体の活力を取り戻し、地域社会に対する影響力を再構築することを目指します。

### 2.2 四国地区会長として描く地域の理想の未来(長期的なビジョン)

私たちが住み暮らす四国には、壮大な四国山脈から湧き出る澄んだ水が流れる河川、豊かな水産資源を誇る瀬戸内海や太平洋があります。そこに住む人々は、物質的な豊かさだけでなく、心の奥底から湧き上がる郷土愛を持っています。しかし、四国地区は少子高齢化、人口減少、南海トラフ大震災発生リスクといった課題に直面しています。青年会議所も会員の減少が地域への運動発信に影響を与えています。これらの課題に真摯に向き合い、解決に向けた行動を起こさなければなりません。私たちの目指すのは、会員が誇りを持って行動を起こせる地域です。私たち一人ひとりがリーダーシップを発揮し、周りを巻き込み、どうやってこのまちの人々が良くなるのかを考え突き進むことが重要です。各メンバーが

地域課題を発見し、その課題を解決するために夢中で運動を発信する。この好循環から、地域から四国全体の活力を取り戻し、一つにしていけます。さらに、日本青年会議所と四国地区協議会が連携して推進する運動を発信する過程から、メンバーに成長していただき、リーダーシップや様々なスキルを身に付けて、自分の大切な人や大切なまち会社にお返して行ってほしいという理想を掲げています。どんな運動が来ても、それに懸命に夢中に取り組んでもらい、広い知見で学んでほしいと考えています。このビジョンに基づき、私たちは四国地区の魅力と活力を再発見し、発展させるために、全力で取り組んでいきます。

## 2.3 2025年度の方向性

---

### リーダーシップとスキルの育成

地域の課題を発見し、それを解決する運動を通じてリーダーシップやスキルを身につけることを目指しています。地域の課題に取り組むことで、メンバーは自らのリーダーシップ能力を発揮し、問題解決のためのスキルを向上させることができます。得られた成果を自らの会社や地域、大切な人々へと還元し、この好循環を広げることが四国地区協議会の目標です。

### ブロック協議会やLOMIに対する支援の強化

四国地区協議会は、各地のLOMに対して積極的な支援を行い、地域の課題と地域の状況を集約していきます。これにより、ブロック協議会を軸に情報共有を行い、効率のかつ効果的な解決策を模索します。各LOMの例会や総会の開催状況を定期的に確認し、開催が困難なLOMに対しては日本青年会議所と連携して適切な支援を提供します。これにより、LOMの活動が停滞することなく、メンバーが積極的に参加できる環境を整えることができます。

### 情報共有と連携の重要性

四国地区協議会は、日本青年会議所が推進する運動を各LOMに届ける役割を果たしています。この役割を通じて、各ブロック内のLOMを支える強固な基盤を作り上げることを目指しています。情報共有と連携の重要性を認識し、各地域の課題や成功例を共有することで、他のLOMにも役立つ知識や経験を提供します。

### 運動発信のサポート

運動発信に慣れていないメンバーに対しても、その行動をサポートし、地域を愛し、困難に負けずに前向きに行動する習慣をつけてほしいと考えています。具体的には、メンター制度や研修プログラムを通じて、メンバーが自信を持って運動を発信できるように支援します。また、経験豊富なメンバーが新入会員をサポートし、彼らがリーダーシップを発揮できるような環境を整えることが重要です。

### 四国地区全体の活力を取り戻す

四国地区協議会は、地域の課題に真摯に向き合い、それを解決するための運動を通じて、四国地区全体の活力を取り戻すことを目指しています。各メンバーが地域の課題を発見し、それを解決するために夢中で取り組むことで、地域社会に対する影響力を強化します。これにより、四国地区全体が一つのコミュニティとして団結し、地域の魅力を高めることができます。

### 長期的なビジョン

最終的には、全てのLOMが夢中で活動に取り組むことを目指します。各メンバーがリーダーシップを発揮し、地域の課題に真摯に向き合い、解決に向けた行動を起こすことが重要です。このような好循環を創り出すことで、四国の未来を輝かせ、魅力的な地域社会を実現していきます。

以上の取り組みを通じて、四国地区協議会は四国全体の活力を取り戻し、地域社会に貢献することを目指します。地域の課題を解決し、メンバーが成長することで、四国地区全体が発展し、希望に満ちた未来を創り出すことができると確信しています。

## 2.4 前年度からの引継ぎを反映したアップデートポイント

---

### ①ブロック会長との連携強化、およびLOM支援体制の確立。

■LOM支援の強化とブロック協力体制」セクションでは、ブロック会長とのミーティングを通じて、各LOMの課題や必要な支援を吸い上げる仕組みを構築する予定です。特に、LOMの拡大と支援のために効果的な連携体制を強化します。

### ②スケジュールの明確化と、役員会のリアル・オンライン併用。

■役員会運営の改善とスケジュール調整において、スケジュールを細かく調整し、リアルとオンラインを併用したハイブリッド形式で役員会を開催する予定です。これにより、役員会の負担を軽減し、効率的な運営を実現します。

### ③小規模LOMへの支援。

■事業構築と小規模LOM支援はヒアリングした各LOMの問題点など、地区協議会が積極的にサポートする体制を整える予定です。これにより、各LOMが効果的に事業を展開できるよう姿を目指します。

### ④出向者数の維持と広報活動の強化。

■出向者輩出と広報活動強化セクションにおいて、ユーチューブやSNSを活用した広報活動を推進し、出向の魅力を発信する体制を強化する予定です。

### ⑤国際機会の提供や、LOMの国際参加促進。

■国際機会の提供と参加促進セクションにおいて、ASPACや世界会議への参加を積極的に促進しました。これにより、メンバーが国際的な場に安心して参加できる環境を整え、国際事業へのハードルを下げることができました。さらに、LOMメンバーが他国のメンバーと交流し、広い視野を持つことで、相互に成長できる機会を提供しました。四国地区内のメンバーにとっても、国際的な視点を得ることが重要であり、今後も引き続き国際的な活動を引き続き支援していきます。

### 3 基本方針

#### 基本方針

高い理想が導く

希望に満ちた四国の創造

#### 事業計画

1. 【地区連】JCカップU-11少年少女サッカー地区予選大会の開催
2. 【地区連】スポーツを通じて個人の意識改革から共生社会実現に向けた事業
3. 【地区連】戦後80年を迎える日本の平和共育推進事業の参画
4. 【地区連】災害ネットワークの強化に関する事業
5. 世界を感じ、地域を知り、知見を広げる機会を作る事業
6. 未来を創造する四国版JCアワードの開催
7. 四国地区リーダーシップ事業の実施
8. 四国地区大会 坂出大会の実施

## 4地区連携事業(政策手法)

### ① JCカップU-11少年少女サッカー地区予選大会の開催

#### ■ 本会方針

同じ地域に住まう人々が互いに思いやる社会を実現していくために、地域の未来を担う子どもにスポーツの力を通じ、協力しあう必要性と他者への思いやりの大切さを兼ね備えた人財を育成します。

#### ■ 地区での実施方法

地区協議会として、各ブロック協議会の予選大会を勝ち上がったチームを対象に、JCカップU-11少年少女サッカー予選大会を実施します。

#### ■ 地区での実施時期

2025年9月上旬を予定しています。

### ② スポーツを通じて個人の意識改革から共生社会実現に向けた事業

#### ■ 本会方針

誰もが自らの個性をいかし、生きやすい共生社会を実現していくために、デフスポーツの体験を通じて認知度を向上する機会を提供することで、互いの違いを認め合い個性を尊重できる人財を育成します。

#### ■ 地区での実施方法

本会と連携し事業構築を行い、誰もが輝ける場所を提供することで、多彩な人財が活躍するための土壌を作ります。多様性を認め合うことがよりよい社会へと繋がるという意識を醸成することに加え、ともにスポーツでわかり合い、お互いの違いを認め、尊重し合う共生社会を実現する事業を実施します。また、開催方法についてはJCカップの地区予選と同時開催するものとし、JCカップ出場者を主な対象者とし体験の機会を提供します。

#### ■ 地区での実施時期

2025年5月～6月

### ③ 戦後80年を迎える日本の平和共育推進事業の参画

#### ■ 本会方針

戦後80年という節目にあたり、戦争の悲惨さと、地域の人々に伝えることによって、今ある平和な世界が当たり前でないことを再認識し、これからの未来に平和を紡ぐ人財を育成します。

#### ■ 地区での実施方法

日本本会と連携して、運動を推進します。四国地区内の空襲など戦争の爪痕が残る観光地を訪れ、るなど、当時の出来事やその後の復興過程を学びます。また、デジタルアーカイブや現地ガイドや語り手を通じ、戦争の現実を理解し、現在の平和な姿に至るまでの歴史を深く知ることで、平和の尊さを実感する機会を提供します。

#### ■ 地区での実施時期

2025年4月～8月

#### ④ 災害ネットワークの強化に関する事業

##### ■ 本会方針

2024年1月1日に発災した能登半島地震を教訓に、迅速かつ適切な災害支援を行うために、平時からLOMと地域の連携体制構築に取り組み、しなやかな防災レジリエンスを持ち合わせた早期災害復旧・復興ができる地域を目指します。

##### ■ 地区での実施方法

①各災害に合わせて各協議会と各LOM、各社会福祉協議会がどのような手順で災害支援を行うかについてのマニュアルを作成します。また②持続可能な災害支援方法として災害支援型ビジネスモデルを考案し、社会実装まで行います。さらに③地区協議会との防災連携の推進する事業を実施します。

##### ■ 地区での実施時期

通年

## 5 地区独自の事業

### ① 世界を感じ、地域を知り、知見を広げる機会を作る事業

#### ■背景

青年会議所は、国際的なネットワークを活用し、世界で学び合う機会を提供しています。しかし、国際的な活動に関する情報不足や参加への不安が、メンバーの積極的な参加を妨げる要因の一つとなっています。このため、メンバーの視野を広げ、可能性を引き出すための国際的な機会を提供することがますます重要です。四国地区のメンバーにとって、これらの機会をより身近に感じ、積極的に参加できる環境を整えることが求められています。

#### ■目的

ASPACや世界会議などの海外ファンクションを通じて、四国地区のメンバーが四国の魅力を世界に発信し、国際的な視野を広げる機会を提供します。これにより、世界から見た四国の新たな魅力を再発見し、地域での活動にも生かせる国際感覚を育むとともに、グローバルなリーダーシップ感覚を持つ人材の育成を目指します。

#### ■推進体制

連携パートナー:

- ①日本JC(協力、連携)
- ②海外NOM、LOM、メンバー(協力連携)
- ③四国地区各ブロック協議会(協力、連携、発信)

参加対象者:各ブロック協議会、各LOMメンバー

#### ■施策の詳細

- ①ジャパンナイトにおける四国の魅力発信ブースの出展
- ②世界で活躍するメンバーや海外ファンクション参加経験者による活動報告会の開催
- ③JCIアカデミーへの参加促進
- ④ASPAC、世界会議への参加サポート

### ② 未来を創造する四国版 JCアワードの開催

#### ■背景

四国地区内のメンバーが発信する運動を広く周知し、各LOMの活動に対する誇りと新たな気づきを得ることを目的としています。本アワードは、四国地区内の各LOMが自らの活動を披露し、評価を受けることで、運動の最大化を図るものです。また、メンバー同士の交流を深め、互いに刺激し合う場とすることで、地域全体の活性化を目指します。

#### ■目的

四国地区内の運動をメンバーに広く周知することによって、自分たちの活動に対する誇りを持つことができます。また、他のLOMの取り組みを知ることによって新たな発見や学びを得ることができ、それが刺激となり、各地の運動の質や効果を向上させることが期待されます。これにより、四国地区内全体の運動がさらに活発になり、地域社会への貢献度を最大化することを目指します。

#### ■推進体制

連携パートナー：

- ①協力企業
- ②各ブロック協議会(協力、連携)
- ③有識者パートナー

参加対象者：

四国地区内LOMメンバー

#### ■施策の詳細

- ①四国内各LOMから事業を募集する。
- ②四国地区大会内にて市民やメンバーに対してプレゼンを行う。
- ③四国地区大会内にて審査を受けた事業に褒章をする。

### ③未来を創るリーダーシップ事業の開催

---

#### ■背景

四国地区内の各LOMは、それぞれが地域の課題に取り組んでいますが、共通して直面している組織の課題は「会員拡大」です。多くのLOMは、地域の課題解決の重要性を理解している一方で、会員拡大の必要性や緊急性に対する意識レベルは一人一人がバラバラで、さらにその担い手が不足しているのが現状です。この問題を解決し、次世代のリーダーを育てることが、組織の持続的発展にとって不可欠です。

#### ■目的

四国地区内の青年会議所メンバーが、会員拡大の重要性と緊急性を理解し、リーダーシップを発揮できるようになることです。また、会員拡大を通じて地域に貢献できるメンバーを育成し、組織全体の活性化と持続的な発展を目指します。特に、次世代のリーダーを育て、未来に向けた組織拡大の基盤を築くことが重要です。

#### ■推進体制・連携パートナー

- ①協力企業
- ②各種団体(連携、協力)
- ③四国地区内各ブロック協議会(発信、連携、協力)

参加対象者：四国地区内青年会議所メンバー及び一般参加者

## ■施策の詳細

- ①各LOM理事長、メンバーを対象に、リーダーシップを強化するためのトレーニングを実施します。日本本会と連携し、会員拡大に必要なスキルや知識を具体的に学べる場を提供します。これには、リーダーシップ理論、問題解決スキル、プロジェクトマネジメントの基礎が含まれます。
- ②地域課題や会員拡大の必要性について、グループで具体的な解決策を検討するワークショップを開催します。地域ごとの課題に対して、メンバーが協力しながら解決策を見つけるプロセスを通じて、実践的なスキルを養います。
- ③他のLOMでの成功事例を紹介し、会員拡大の実践におけるヒントやモチベーションを高めます。これにより、各LOMが会員拡大に向けた小さな成功体験を積み重ねられるよう支援します。

## ④希望が持てる四国地区大会 坂出大会の実施

---

### ■背景

四国地区協議会ではメンバー数の減少により、四国地区大会の主管を躊躇するLOMが増え、交流機会も減少しています。これに対処するためには、各LOMが誇りを持ち、率先して大会を引き受けるモデルケースを作ることが重要です。理念や情熱を共有できる場を提供し、青年会議所運動の素晴らしさを再認識していただきたいです。これにより、次世代のリーダーシップを育成し、地域間の結束とJC運動の活力を高めることを目指します。

### ■目的

四国地区協議会のメンバー一人ひとりの気運を高める四国地区大会を実現し、各メンバーが誇りを持ち、率先して主管LOMとして四国地区大会を引き受ける意識を醸成すること。また、県境を超えた交流を活性化させることで、四国地区協議会の青年会議所メンバー同士の相互交流を深め、強固な連帯意識を形成することを目指す。

### ■推進体制 連携パートナー

- ①香川県、坂出市(連携、協力)
- ②地域各種団体(連携、協力)
- ③四国地区内各ブロック協議会(発信、連携、協力)

参加対象者: 四国地区内青年会議所メンバー及び一般参加者

### ■施策の詳細

- ①青年会議所メンバーのリーダーシップや成長を促進するためのフォーラムを開催し、各メンバーが地域の価値を高めるための議論を深める機会を提供する。

②四国地区内の各ブロック協議会との連携を強化し、青年会議所の理念とメンバー同士の交流を深めながら、リーダーシップ育成や個々の成長を支える事業を推進することで、四国地区全体の連帯感を強化する。

## 6 参考資料

### ①年齢別人口

#### 香川県人口移動調査報告

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/tokei/jinko/jinkoido/index.html>

#### 愛媛県推計人口及び人口動態

<https://www.pref.ehime.jp/page/3340.html>

#### 高知県の推計人口

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/t-suikei/>

#### 徳島県人口調査票

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/statistics/month/jinkou>

#### JC論

<https://note.com/takeakikamada/n/n642da4b5d552>

※各データ資料に年齢別人口について、記載はありませんが、各県庁担当課よりに聴取して、およその年齢別人数を記載させていただいております。